初荷初市風景

金沢問屋センター繊維同業会（八田隆年会長）吉例の初市は１月６・７の両日、各社会場にて行われた。

大変厳しい経済環境の中ではあるが、好転へのきざしも見えはじめ、アパレルではヒット商品不在の中、春物ニットや明るいトーンのブラウス、上代19,000～29,000円位の値頃感のあるスーツが動いている。又、呉服の方でも高級品から100万円以下の価格帯中心に移動し、従来のフォーマル一辺倒からの転換が求められている。

金沢問屋センターニュース

1994. 1

No. 58

協同組合 金沢問屋センター 金沢市問屋町２丁目61番地 ☎37-8585 ●発行者／越原哲郎

加賀友禅作家　百貫華峰 作　「春鴨の図」

更なる飛躍の年に

(協)金沢問屋センター
理事長 越原哲郎

新年、明けましておめでとうございます。

さて、昨年の我が国は、政治改革をめぐる意見の対立から自民党が分裂し、続く総選挙において３つの新党が躍進を果たしたのを受け、細川連立政権が誕生するという新たな変化が起こりました。経済の面では、個人消費、民間設備投資がともに低迷を続け、天候不順による米の不作も重なり、景気は引き続き停滞、かつてない泥沼の状況となり、厳しい経営環境のうちに１年が推移いたしました。

当組合においても、前の理事長　小川甚次郎氏が、私どもの願いもかなわず、１月28日にご逝去され、悲しみのスタートとなりましたが、４月には、新たな試みとして合同企業説明会を開催するなど、氏の志を受け継ぐべく、更に前進を続けるよう努力を重ねて参りました。

新しい年を迎え、政府の大型景気対策が打ち出されたにもかかわらず、依然として景気回復の目途が立っておりませんが、予想される所得税減税等の実施により、心理的な効果も含め個人消費がゆるやかでも上昇に転じれば、企業収益も悪いながらも回復基調になるのではないかと、願わずにはおられません。

昭和42年に完成して以来、26年を経過し、曲がり角にもさしかかったともいえる当組合は、昨年まで３ヶ年計画で団地再整備事業を実施してきましたが、「情報化への対応、物流機能の強化、労働環境の改善」という所期の目的を、組合全体として達成し、更なる飛躍ができるよう　考えておりますので、組合員各位のより一層のご協力を心からお願い申し上げ、年頭のご挨拶と致します。

'94 新年互礼会

恒例、協同組合金沢問屋センターの新年互礼会は1月4日午後2時より金沢流通会館大ホールパルスにおいて来賓、組合員280名が参加して開かれた。

国歌斉唱に引き続き、越原理事長から挨拶があった。次いで谷本県副知事、山出市長、沓掛参議院議員、澁谷会議所副会頭より祝辞を賜り、宇野県議会議員の発声の下に乾杯を行い祝宴に移った。

宴たけなわの処、嶋田県商工課長の音頭で万歳三唱し、本年も盛況の内に終了した。

年男 大いに 語る

年男と数霊「12」

㈱井口商店
代表取締役 **井 口 総 一 郎**

年頭にあたり年男の所感を一言と事務局の方から申し込まれて一寸慌てた。然し日頃関心の余りなかった年男の意味を調べてみる機会を得たことに感謝している。

書物によれば年男とはその兄弟（えと）にあたった男の意味ではなくて各家の正月を中心とした行事の主役を演ずる男のことであり、一家の主人がなることが多かったが長男が行うこともあり、東北地方の旧家では奉公人の年長者がつとめたこともあった。その役目は、正月迎えの準備として年神を祭ること若水をくむことや雑煮たきなどがあった。年神は正月様とか若年様ともいわれる。トシは古語で穀物即ちイネの意味から豊作を祈って祭る神の意味となる。去年の様な米の大凶作にならない様年男の任務も重且つ大といわねばならない。西日本では年男の役を女性が演じたことがあるという。又、神社や寺院では厄年にあたる者を年男、年女と呼んで正月の行事に特定の役割をはたさせる民俗も各地にある。又、近年では節分の豆まきをする男子を年男と呼ぶ地区もありその意味は広い。いずれ12年毎に巡り来る時の配慮に就いて若干調べてみた。

十干十二支は十幹十二枝の意味で文字通り植物穀物の生長具合を年間を通して分けたもので種子が地に落ち雨と太陽の恵みを受け、根を出し芽を生じ成長する様子を時節に分けていい表わしたものといわれる。1年を12ヶ月としたのは陰暦法で古くバビロニヤからで、それから占星術が発達した。アメリカ前大統領レーガン氏の夫人ナンシーさんも大の占星術のファンであったとか。

イスラエル民族の十二支族はその聖なる数字にあてはめて考えられている。即ち「十二」は星座の獣帯または黄道帯の数であり、何かこれに関連した神話的意味から端を発したと推測される。

東洋では中国三皇五帝の時代（A.D.2,000？）黄帝のとき十干十二支の組合せが行われ前漢をへて後漢の光武帝（A.D.68）に至り年月日時をしるすこととなった。それに五行（木火土金水）を配し、更に兄（え）と弟（おと）に分けることになった。（え）（おと）が音便で我が国では（えと）の訓読されている。十二支は又方向を表すに用いられ、十干や五行、兄弟（えと）との組み合せが盛んに行われ、人生の吉凶、禍福、成否、得失等を判断し、ひいては諸々の迷信や占い等の風俗を生ずることとなった。我が国では一搬に十二支を動物の名で呼ぶ習慣があり、本年の戌（じゅっ）を「いぬ」と呼び「ワン公」の年であるということになっている。事実はあまり意味のない様なことだがせめて駄犬にならない様、年初改めて努力向上への決意をしたい。

久哉への手紙

㈱トルハート
副社長 **田 中 隆 称**

皆さんあけましておめでとうございます。今年は甲戌　私が昭和21年の戌年生まれという事でこの企画のお鉢が廻ってきた様ですが、信心とか占いとか情報暦云々とかいうものと無縁な人間である私には年男とかいう意識は全くありませんので、表題(年男大いに語る)の様な文章は書けませんので御容赦下さい。

さて回り中から耳にタコが出来る位〝悪い〟、〝悪い〟の大合唱が聞えはじめてから2年程経つでしょうか。我々インテリア業界も御多分にもれず鍋底を這う様な大変厳しい状況が続いております。多分に希望的観測を入れてですが、今年の秋口にはマクロな経済は若干の明るさが出てくるものと思われますが、我々インテリア業界の景気の波は大体一年半から二年のタイムラグがありますので、今年より来年の方が更に落ち込む可能性が大、少し良くなったかなと実感出来るのは再来年の春先位かなと思っております。あと二～三年もこういう状況が続くかと思いますと、楽天家の私でもさすがに気が滅入りますし、顔色も冴えなくなってまいります。こんな落ち込んだ気持で昨年の暮、自宅の物置の整理をしておりますと一冊の古びた日記が出てまいりました。懐しく手に取ってパラパラとページをめくってみますと、昭和43年7月3日付、大雨として私の弟への手紙の写しとコメントが書いてありました。全く青臭くお恥かしい限りの文章ですが、この正月久し振りに私に青春の息吹きと情熱を思い起こさせてくれた手紙でした。長くなりますが筆を加えずそのまま書き写してみます。

「久哉、私はオカアチャンの手紙を見て泣きたい気持です。どうして人に頼る気持がなくならないのです。どうして泣き言を言うのです。君が泣き言を言ってオロオロしているうちに入試はどんどん近付いて来ます。入試は待ってはくれませんよ。人に頼る前にどうして自分でぶつかってみないのです。塾の先生から習えないから、勉強の仕方がわからないから、〝さあどうしよう〟だって、ふざけるんじゃない。〝勉強の仕方がわからない〟とか言えるのはとことん勉強した人達だけなんです。君にはそんな資格はありません。君は今迄どれだけ勉強した事があるのです。どれだけの勉強法をためした事があります。君は倒れる迄、そこ迄勉強した事がありますか。いくら努力してもあがらない成績に成果に涙を流し

た事がありますか。そして大きな壁にぶつかって本当に苦しみ抜いた事があるんですか。〈中略〉

〝何がどうだったから〟、〝かにがどうだったから〟〝出来なかった〟とか言うのはヘタな言い訳です、泣き言です。〈中略〉 泣き言を言う前にどうしてぶつかってみないのです。大きな壁にぶつかってそれを自分の力で乗越えた時、初めて自分の進むべき道、とるべき方法というものがわかってくるものなんです。人から教えられたもの、それはあくまで借り物でしかありません。まやかし物以上の何物でもないのです。最後の土壇場で力を発揮するものは自分が死ぬ苦しみの中からつかみ出した物だけなんです。どうか自分の力を信じて下さい。〝自分は最高の男なんだ〟という信念を常に抱いて下さい。だから誰にも負けないんだと…。自分がやってやれない事なんてこの世の中には何一つありはしないのです。自分の目標を決めたら、それに向って全力を挙げて突進するんです。わき目もふらず。第一の壁を突き破れたら第二、第三のものは意外と簡単に突破出来るものなんです。不可能だなんて言ってはいけません。不可能は小心者の幻影であり、卑怯者の逃避所なんですから。〈中略〉 たとえ不可能に近い事であっても、それを可能と信じ、全力を挙げてぶつかっている間はまだまだ可能性はあるんですから。そして不可能と思いあきらめた時、不可能は真に不可能となるんです。あきらめから勝利はありません!! 泣き言から勝利はありません!!

自分の力を信じ、希望をもって勉強して下さい。私は君の力を、能力を信じています。』これは久哉に対するだけのものではなく、卑怯な自分に対する手紙でもあるんだ。力強い一人のオレが卑怯な、か弱いもう一人のオレに対して書いた手紙なんだ。〝この世に不可能はなし〟この言葉を自分に言い聞かせガンバロウ。いろんな意味で。

S43年7月3日(水) 大雨

青いですネー、だけど私はこの青さを失いたくありません。さて貴方は……。

平成六年 甲戌 外は木枯し、

お互いガンバリましょう。

紅白歌合戦景気予則論

冨木医療器㈱
常務 冨 木 誠 一

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い致します。私は昭和21年生まれの犬年ですから、今年が年男と云う訳で「年男大いに語る」を書けとの仰せ。従来でしたら「年男大いに語る」は、特に犬年の今年なら尚更のこと、吼えに吼えまくっても語り尽くせなかったのですが、生憎と廻りの何処を見渡しても、やれリストラだとか、やれリエンジニアリングだとか、(当問屋センターの中でもリストラだ、リストラだと吠えているのがおりますけれども)姦しい中での年男は語るは、犬の遠吠えと思ってお聞き頂ければ幸いです。

元来、犬年は歴史的にみても天変地異も少なく、特に経済面での出来事も少ないのが特徴とされております。但し、これも日本だけで、世界に目を向けて見ますと時代を画する様な出来事が多く起きております。この様に犬年生まれの日本人は、性格は至って温和、誰からも好かれるタイプの人間といえるのではないでしょうか。(本人そっくり)。然し、犬に関連した諺の中に「うちの前の痩せ犬」と云うのがあります。これは、痩せ犬も飼い主の家の前にいるときは威張っている、即ち、内弁慶を指すのであり、この手の外面だけがいいのもいます。(これが本当の本人) 一方、時々、狼の生まれ代りみたいな人間も目につきますが。

扨て、皆さんの今年の一番の関心事は何といっても経済、即ち景気回復です。犬年の今年、景気は回復するのかと云うことです。我が家の言い伝えから判断しますと今年は無理と出ています。我が家の言い伝えとは「暮れの紅白歌合戦で白組が勝つと、その翌年は景気が悪くなる」と云うことです。どんな有名な経済学者や研究所の予想よりも確度が高いとの評判? 一昨年の紅白では白組が勝って、次の年の昨年の景気は見ての通り。昨年の暮れの紅白はご存じの様に白組の圧勝、そうなると今年の景気は一段と厳しさが?

今年は無理としても、来年は是非共回復を願う一人としては、今年の暮れの紅白には、紅組に絶対に勝って貰わなければなりません。じゃあ、紅組の必勝対策はと云うと、現在の紅組のメンバーを見てみますと圧倒的な大物のスターが居ない。(昨年の巨人の4番打者みたいなもので)。ここで、大物スターの登場が待ち焦がれるのである。新人の発掘もいいが、矢張りここは実績のある人の登場が一番いい。(松井の将来性よりも落合の実績を買った巨人に見習って)。実績、その他諸々を含めてスター的要素を一番持っているのが、「美空ひばり」。然し、残念なことに、彼女は不可能。そうなると、やっぱり現在では、「山口百恵」しかいない。あの伝説的なサヨナラ公演で我々の前から消え去った彼女にもう一度再登場を願おう。いろんな方々が芸能界に復帰されている中で、あなただけです。

日本経済を不死鳥の様に甦らす為に、彼女に火の鳥になって貰いたい。日本全国津々浦々、公演を催して不景気風を一掃しよう。(長島監督が「落合効果」を期待するのと同じ様に、我々も「百恵ちゃん効果」を期待しよう)。暮れの紅白には山口百恵の出場で紅組の勝利間違いなし。これで、来年の景年は万々歳。(早や、鬼が笑っておるぞ)。山口百恵なんて知らないって、でも十分、その人達はJリーグかなんかで消費しているから。W杯不出場の分も含めて、尚更山口百恵で消費を刺激しましょう。世界に気前のいい日本も、ここらで、家の前の痩せ犬を返上して、クリントンさんよりも、山口百恵にお百度参りをしましょう、細川さん。然し乍ら、所詮、犬の遠吠えは除夜の鐘の声に掻き消されてしまいそう。

平成6年度の経済見通し

株式会社北國銀行問屋町支店
支店長 森 田 進 太 郎

明けましておめでとうございます。新年を迎え謹んでお祝い申し上げると共に、日頃のご愛顧に対し厚くお礼申し上げます。

昨年は皇太子さまのご結婚というおめでたいことやJリーグ開幕によるサッカー熱の高まりなど明るいニュースもありましたが、ゼネコン汚職や北海道南西沖地震、冷夏による大区作など暗いニュースの中、自民一党支配の終焉、コメ部分開放の決定、カンボジアでのPKO活動、中国の開放経済政策とその後の引き締め、ロシアの武力弾圧と選挙での極右躍進など激変の年でした。

一方、経済面では平成3年5月より始まった景気の悪化は昨年の春頃持ち直しの期待もありましたが、夏過ぎには再び低迷し、年明け後も回復の兆しがないまま現在に至っています。その期間は本年2月で34ヶ月となり、過去最長であった第二次オイルショック後の不況36ヶ月を凌駕しそうであり「平成大不況」の様相を呈しています。このような不況となった原因と今後の見通しについて以下述べてみましょう。

今回の不況の特色はその長い期間もあるが、それだけでなく何度も回復の期待を裏切られたことであり、その原因となるような事が次々と発生しました。

第一の原因はバブル崩壊による資産デフレがあげられます。株価は日経平均株価が平成元年末に3万9千円であったものが平成4年8月には1万4千円となりその下落率は60%強と大幅なものとなりました。その後、公的資金の導入などにより2万円台を回復し一時2万1千円台となったものの、最近では1万7千円台に低迷しています。先行きについても、企業業績の好転が期待できないことから、力強さを欠く展開が予想されます。また、地価についても平成3年の秋口から急落し、大都市を中心に価格が二分の一となるところもでています。地方の住宅地については下げ止まりとなっていますが、商業地については引き続き弱含みとなっているため、土地取引きは減少しており、不動産業者や金融機関に打撃をあたえ景気の回復を遅らせています。

第二の原因は設備投資の行き過ぎの反動があげられます。設備投資は昭和61年から平成3年までの6年間ものあいだ二桁の上昇を続け、平成3年にはGNPに占める割合は20%にまで達しました。

第三は円高の影響です。円は昨年の2月上旬まで1ドル=125円前後で安定していましたが8月には1ドル=100円台まで約20%上昇しました。輸出商品は海外での競争力を失い、企業収益の大幅な悪化をもたらし、春先に一時現われた景気回復ムードに水をさしました。

第四は冷夏による影響で、農村の購買力を低下させ、季節商品の売行き不振を招きました。

第五は雇用環境の悪化や先行き不安に加え、自動車など耐久消費財を中心としたストックの反動で消費不況が発生しました。

第六は政権の交替やゼネコン汚職などによる景気対策の遅れがあげられます。

以上、多くのことが重なった今回の不況ですが、本年の後半より徐々に持ち直すものと期待されます。以下その要因を述べます。

① 過剰投資の調整・現在GNPに占める設備投資の割合は約15%となっています。前述のように平成3年のそれは20%でしたが、過去の例からみて投資比率が20%を越えると投資過剰になり景気は反転、15%まで下がると回復傾向となります。

② 為替の安定・円高による輸入価格の低価により企業収益が改善されるのに加え、円相場は1ドル=110~115円の安定した水準が予想されます。

③ 好調な住宅投資・金利の低下もあって住宅着工は好調に推移しており、家具、電化製品の需要増など波及効果も期待できます。

④ 持直す自動車販売・買替え需要が予想され、4年ぶりに前年比プラスになるものと思われます。

⑤ 海外の景気回復・アメリカ経済が堅調なことやヨーロッパ、特にドイツの持直しに加え中国を中心としたアジア地域の高い成長率が予想されます。

⑥ 所得税減税・減税が行われれば消費マインドは高まり、個人消費回復の導火線になると思われます。

⑦ 金利の低下・物価の安定、円高、マネーサプライの低迷など金利低下の余地が多い。

こうした中、規制緩和によりビジネスチャンスの拡大が予想されますが、その時のためにも各企業のバランスシートの改善が望まれます。

最後に組合員皆様方の益々のご発展を祈念し、合わせて本年もご支援賜りますようお願い申し上げます。